



自治会活動推進ポスター 最優秀賞作品

ひたちなか市自治会連合会は、地域づくりの担い手となる小学生を対象に、自治会や地域活動への理解と参加を促進することを目的として、夏休みに自治会活動推進ポスターを募集しました。

地域の夏祭りや登下校時の見守り活動、清掃活動などを描いた全95点の応募がありました。審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞19点が選ばれました。最優秀賞は堀口小学校5年 仲野 実紗さんの作品が選ばれ、今後の自治会加入促進の啓発などに活用されます。(次ページに優秀作品を紹介)

堀口小学校 5年 なかの 仲野 みさ 実紗 さん



自治会活動推進 ポスター表彰式

11月20日(土)市文化会館大ホールで、当連合会主催のリーダー研修会と併せて、自治会活動推進ポスターの表彰式が行われ、当連合会会長から賞状と記念品が手渡されました。

最優秀賞を受賞した堀口小学校5年 仲野実紗さんは、インタビューで「受賞を知ったときはとてもびっくりしました。絵の自信にもつながりました。」と答えてくれました。

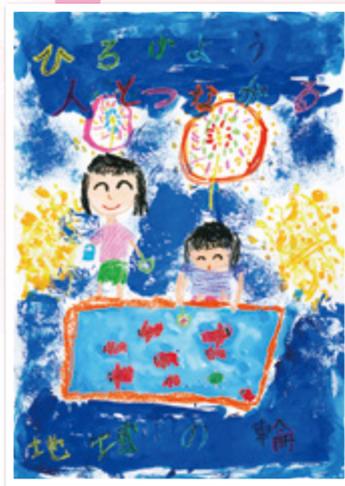
当日、文化会館内では、最優秀・優秀賞作品の展示ブースが設けられ、受賞者と保護者の方が記念撮影を行っていました。また、リーダー研修会に参加した自治会役員の方々も作品を鑑賞しました。

「子どもたちに残る自治会活動」

自治会活動推進ポスター優秀賞



東石川小学校 2年
かげやま りのん
景山 凜音 さん



東石川小学校 2年
まつもと あおい
松本 葵 さん



東石川小学校 3年
かしま ひな
鹿島 妃菜 さん



東石川小学校 6年
きた ゆずほ
喜多 柚歩 さん



市毛小学校 2年
しがりな
志賀 莉奈 さん



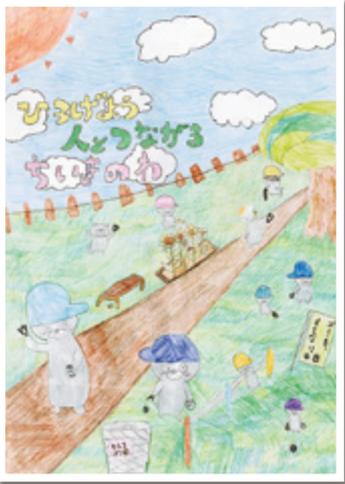
市毛小学校 5年
うみぬま
海沼 ここみ さん

地域の絆・地域の力

安心・安全な地域づくりやお祭りなどの地域コミュニティ活動は、子どもたちの楽しい思い出の1コマとして刻まれています。



堀口小学校 1年
よしだ みゆ
吉田 心優 さん



東石川小学校 3年
せき いおり
関 依織 さん



東石川小学校 4年
その だ り お
園田 璃央 さん



東石川小学校 5年
いそざき わかば
磯崎 和桜 さん



東石川小学校 5年
しんどう あや な
新藤 礼菜 さん



市毛小学校 6年
おおたに もも
大谷 百 さん



佐野小学校 3年
しの だ こう
篠田 航 さん



佐野小学校 5年
みやさか わか な
宮坂 若奈 さん



佐野小学校 6年
ささはら
笹原 ナオミ さん



長堀小学校 1年
まつき ひると
松木 寛人 さん



長堀小学校 5年
おおひら ゆめ か
大平 夢夏 さん



長堀小学校 6年
まつき の あ
松木 乃愛 さん



外野小学校 3年
おおき そうま
大木 颯真 さん

自治会活動推進ポスター 審査会

9月16日(木)市役所で、自治会活動推進ポスター1次審査会を開催しました。市自治会連合会広報委員長及び有識者3名の計4名で、応募があった全95作品の中から、優秀賞20作品の審査を行いました。

10月12日(火)には、市自治会連合会理事会にて優秀賞20作品の中から、最優秀賞を決定しました。今回は、1次審査会で審査員を務めてくださいました福田 仁様に講評をいただきました。

自治会活動推進ポスター審査講評

審査員 福田 仁

今回の審査は画家・村田伊佐夫先生、デザインコーディネーター・西條友弥子先生、自治会連合会広報委員長・佐藤大さん、フォトグラファー・福田の4名で行いました。審査は先生方の個性を尊重し厳正を期すために、投票方式により獲得数の多い作品を優秀賞にすることとしました。

皆さんの作品から自治会活動が手に取るように想像でき、画用紙に向かう真剣さが伝わって、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

特に注視した点は、標語(レタリング=文字)を視線から外しても、絵から地域の活動や絆の深さ等が伝わってくるような作品や、ポスターですので、標語がバランス良く配置され、読み易く丁寧に書かれた作品に高い評価を与えることとなりました。

なお、TVやゲームのキャラクターそっくりの人物や動物画が目につきましたが、皆さんの家族やペットなど周りのものをジックリ観察して、自分らしい絵を描いていただきたいと思いました。

皆さんは今後も様々な自治会活動に積極的に参加し体験してみてください。普段余り気付かない大切なことが目に止まるようになると思います。これを「発見の目」と言って、オリジナリティーの高い作品を作るためにとても大切なことだと思いますので、是非実行してみてください。



自治会活動推進ポスター1次審査会の様子

最優秀・優秀賞の展示



11月30日(火)～12月10日(金)の期間に、市役所 市民ホールで自治会活動推進ポスター入賞作品の展示を行いました。来庁された多くの方々に、力作ぞろいのポスターを見ていただきました。



2年前の自治会連合会リーダー研修会で、東京都東久留米市のある自治会長さんの講話（活動紹介）の中、特に記憶に留めていることがあります。「問題意識を持ってまず動け。動けば結果がついて来る」ということです。

しかし、自らの自治会活動を振り返ってみると、問題意識を持ったまま「動かない」というのが数多くあります。コロナ禍というマイナス要因を差し引いたとしても。

少子高齢化、核家族化が進む中での自治会で、課題は全国的に共通しています。

歳を重ねていくと「今まで出来ていたことがもう出来ない」というような困り事や心配事が多くなっているのは強く感じます。

例えば、置場まで運ぶゴミ出し。資源ゴミの分別や分解。高い庭木の剪定。輪番役員では軽目の役割希望、等々。

このような身近な課題に対し、自治会が会員の力を集めて支援していく「お助け隊」は、自治会それぞれが既に実施していると思います。高齢化対応面で事例の薄い我が自治会です。今回、欲張らず一つの切り口から新たに一步踏み出そうと役員会に計画を提起したところで、「先ず動こう」です。

自助から共助に軸足を広げる活動の活性度を高め、更に暮らしやすいまちづくりを目指したいものです。



リーダー研修会

11月20日（土）に市文化会館大ホールで、当連合会主催のリーダー研修を開催いたしました。

講師は法政大学教授の名和田是彦氏、演題は「自治会の課題と今後求められること」でした。

ひたちなか市のコミュニティ組織のような仕組みを都市内分権といいますが、名和田氏は、その都市内分権の調査研究が専門の先生です。

ひたちなか市の優れた特色として、①早い時期からコミュニティ組織推進活動を行い、これを単位に「まちづくり市民会議」を通じて地域コミュニティの声が反映されている。②各自治会が社会福祉協議会の支部として位置づけられている。③コミュニティセンターを地元のコミュニティ組織で管理運営しており、これを単なる貸し館的運営を脱し、地域活動の拠点となることを目指していること等を挙げました。

更に現在の自治会が抱える課題として、①自治会加入率の低下②ひとり暮らし高齢者の退会③役員のなり手不足、若者の不参加、仕事の負担感を挙げ、これらの諸課題解決策について、全国の自治会事例から詳細に説明がありました。会場では活発な質疑応答が交わされ、今後のひたちなか市における自治会活動推進に有意義な研修会となりました。



高齢者サロン「たまり場・いちげ」

市毛北・南自治会

ひたちなか子どもふれあい館の中に、ひたちなか市と市毛地区自治会及び、市毛地区のボランティアの皆様が協力し、地域の高齢者を中心に、誰でもいつでも自由に楽しめる居場所として「たまり場・いちげ」を令和3年4月1日に開設しました。

「たまり場・いちげ」は、地域のボランティアの皆様が中心に運営しており、ふれあい館の開館に合わせて常設型のサロンとして、月曜日から土曜日の10時から15時までオープンしています。お茶を楽しみながら、おしゃべりや備え付けの遊具（卓球・輪投げ・トランプ・ピアノ・グラウンド・ゴルフなど）を用いて、それぞれが思い思いに自由に楽しめる憩いの場所になっています。また、シルバーリハビリ体操や元気アップ体操のイベントも行っており、さらには、遊びに来られた子育て世代との交流も図っています。



コロナ禍の中で 文化祭の開催

三反田自治会

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、自治会活動の中止や縮小を余儀なくされる中、今できる最大限の活動を心掛けてきました。

今年度の活動は、年間を通じて行っている週2回の見守り活動「見守隊」を始めとする安全安心に係る活動や、社協支部のひとり暮らし高齢者の移動交流会や小学生から高齢者まで参加しての炊き出し訓練、自治会のリーダー研修会など、地域のふれあいが希薄にならないよう行ってきました。

その様な中、去る11月20日(土)・21日(日)に自治会員の皆様のご理解とご協力のもと文化祭を開催することができました。今年で6回目を迎えましたが、昨年と同様にコロナ禍の中、作品の展示のみの文化祭となりました。コロナ禍前までは、作品の展示のほか、健康講演会や麻雀による交流、小学校校庭でのグラウンド・ゴルフ大会、体育館でのスポーツ交流、集会所前での野菜の即売会なども行い大変賑わいがありました。今回は規模を縮小しての開催でした。それでも30名を超える会員からの出品があり、また、予想よりも多くの方に来場いただき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この状況がいつまで続くかはわかりませんが、今できる自治会活動を引き続き模索しながら実施していきたいと考えています。



三世代交流防災訓練

青葉・石川自治会

10月24日(日)に、青葉石川地区三世代交流防災訓練を実施し、多くの方に参加いただきました。新型コロナウイルス感染症対策として、桜フェスティバル、夏祭りを中止としたため、自治会行事は今回の防災訓練から再開となりました。

本地区は都市化が進んでおり、世帯数は1,250を超えます。マンションの割合が戸建住宅よりも多いため、防災訓練も独自のスタイルで毎年行っております。今年度も感染症予防を考慮し、短時間かつ密にならない工夫のもと、楽しく参加できるようにしました。実施場所である東石川第4公園は、地域の一時避難場所でもあり、全世帯が一度に避難可能な規模を誇ります。訓練内容は、非常食および飲料水の迅速な配給やテント、タープ設営の手順確認、防災倉庫の整理整頓や劣化備品の処分と簡素化しました。また、イベントの一環として、例年通り区内の歩道や公園のゴミ拾いも行いました。

青葉・石川自治会では、区内公園の除草作業も年に5回実施しており、実施のたびに住民同士の交流が深まっています。子どもからお年寄りまで参加したくなるイベントであるよう、今後も計画を立てていきたいと思えます。



みんなできれいな街づくり

相金自治会

相金自治会では町内にある3か所の公園を、それぞれに年数回ずつ除草・清掃作業をしていますが、これに加え、年2回の町内全域のゴミ拾いの清掃活動を行っています。今回、この清掃活動について報告します。

清掃活動は毎年5月と11月に実施しています。各回、約50名の会員が参加、分担し町内を隈なく回り、道路脇や空き地、田んぼの土手などに捨てられたゴミを回収しております。ゴミは、燃やせるゴミと燃やせないゴミに分けて小袋に拾い集め、町内3か所の集積所でさらに正しく分別し、大袋に詰め直しています。最近、住宅地区のゴミはすっかり減って、きれいな状態が維持されていますが、その一方、田んぼや空き地など住宅の少ない地区には、依然としてポイ捨ての空き缶やペットボトルなどが目につき、まだまだの感があります。

幸い、親子揃っての参加も多く、子どもの時からのこの環境美化の経験が、今後の「ゴミのないきれいな街づくり」に大きく役立つものと期待しています。



美乃浜学園 登下校時の見守り活動

美乃浜学園は、阿字ヶ浦小学校、磯崎小学校、平磯小学校、阿字ヶ浦中学校、平磯中学校の5校が統合し、令和3年4月1日に開校しました。

学校の開校に伴い、通学路も新しくなり、ひたちなか海浜鉄道を利用する児童・生徒も多くなりました。美乃浜学園地域の自治会では、学校や地域と連携し、子どもたちの安全・安心を守るため、学校や駅周辺において登下校時の見守り活動を行っています。

今回は、登下校時の見守り活動を実施している各自治会の活動内容や活動への想いを紹介いたします。

「学童パトロール隊」 平磯自治会



統合校美乃浜学園が開校して10か月が過ぎました。旧平磯小学校へ通学していた児童・生徒の大半は海浜鉄道を利用するようになり、平磯駅～美乃浜学園駅の一区間を利用しています。私たち平磯自治会学童パトロール隊は、高齢化と個々の体調管理の側面から以前より参加者は減っていますが、それでも毎日7～8名の老体が頑張っています。

パトロールコースは、主に平磯駅周辺を重点に実施しています。また、天気の良い日は遠回りコースを回ったりと変化を持たせています。平磯コミュニティセンターを出発し、列車が到着する時刻に平磯駅付近を通るように約30分のパトロールを続けています。これからも児童・生徒が安全に通学できるよう頑張ります。



「児童の見守り活動」 磯崎自治会

磯崎自治会や交通安全協会磯崎支部から約13名の有志の方々が、毎週月曜日に下校時刻に合わせて『児童の見守り活動』を行っています。

「こんにちは!」と声をかけ、家の近くまで一緒に帰り、「さよなら」と言って、家まで無事に見届けると私たちパトロール隊もほっとします。



下校途中には、道幅が狭い箇所や見通しの悪い箇所、草木が歩道にかかって危険な箇所などがあるため、子どもたちと歩きながら、随時安全確認をし、交通指導も行っています。

今後、改善が必要と思われる危険箇所については、学校・PTAや市と情報共有を図り、子どもたちの安全のため、安全パトロール隊からも積極的に提案していきたいと思います。今後もより多くの目で子どもたちを見守り、地域ぐるみでのボランティアを一層充実させてまいります。

「阿字ヶ浦地区安全パトロール」 阿字ヶ浦自治会



阿字ヶ浦地区安全パトロールは、地区防犯協会と連携して、週2日の下校時に実施してきました。学校統合にともない、登下校の通学路も大幅に変更となり、パトロール協力員を再編成して実施してきました。

ほとんどの児童がひたちなか海浜鉄道を利用しての通学となり、不安な面もありましたが、元気に通う姿を見て安心しています。

地域の子どもたちを見守る中で何より大事なのが、子どもたちが元気に楽しく通える事。そのために安全パトロールを協力員ともども実施してまいります。また、下校時間に合わせて各家庭で出来る見守り活動も、併せて実施していきます。



「ふれあい歩く会」の開催

勝田本町

新型コロナ感染予防のため、ほとんどの自治会行事については中止となり、コロナ禍でも開催できる行事として、野外で比較的密になりにくく、かつ、誰でも気軽に参加できる「ふれあい歩く会」を実施することとしました。

11月13日(土)当日は、快晴で風もなく穏やかな陽気となり、歩くには絶好の日和となりました。参加者は、小学生から80代のご年配の方までで、本町第二公園を出発しました。

「日製水戸工場創業の地」「市毛コミセン」「鹿島神社」「金砂神社」「加波山神社」「光明寺」「武田氏館」「湫尾神社」を巡る約6.5キロメートルの地元の旧跡を、訪問地での簡単な説明やトイレ休憩を挟みながら一人の脱落者もなく約2時間半かけて歩きました。

参加者からは、初めて訪れた場所もあり、満足したとの声が多数聞かれ、地元を再発見する良い機会となりました。



ノルディックウォーキングを楽しむ

前渡地区

コロナウイルス感染予防のため、事業を自粛しておりましたが、こういう時こそ体力づくりが大切ということで、ノルディックウォーキング体験会を11月に開催しました。

場所は那珂湊コミセン傍の名平洞(なへどう)公園から七カ寺(浄土真宗西本願寺派の七つの寺院が集まっている)を巡るコースで行いました。公園内には池があり、渡り鳥の飛来地として知られています。当日は天気恵まれ、カモなど多くの野鳥を見ながら、のんびり過ごせた日となりました。

ノルディックウォーキングは、専用のポールを持って歩くだけなので、子どもから高齢者まで気軽に運動を楽しむことができます。スポーツが苦手な方にもオススメです。



コロナ禍の敬老会

元町

令和3年度、コロナ禍ではありましたが敬老会を実施しました。元町は敬老会対象者が27名と少なく、家族のご近所付き合いをしているまちです。最終参加人員は19名でした。本年度は多くの敬老者から是非敬老会を実施して頂きたいとの強い要望があり、参加者がワクチン2回接種済のため、9月19日(日)に実施することに決定しました。

しかしながら、8月20日に緊急事態宣言が発令され、9月末日まで宣言期間となりました。その頃飲食店は売上が激減し、苦境にありました。キャンセルすることは忍び難く何とか実施したいと10月10日(日)に日程変更し、宣言解除後になんとか実施することができました。

コロナウイルス感染防止の観点から式典とアトラクションは駐車場の特設会場で実施しました。敬老者は店内6部屋に分かれて会食、役員は弁当持ち帰りで実施しました。今回ダンススポーツ少年団10名との交流、フラダンス、手品と内容も良く好評でした。



誰もが楽しめる生涯スポーツ「グラウンド・ゴルフ」大島公園西

大島公園西自治会には会員有志で作るグラウンド・ゴルフ同好会があります。グラウンド・ゴルフは軽い運動ですが、生涯スポーツとして取り組むことができ、みんなで楽しくプレーをしているうちにあっという間に時間が過ぎ、知らないうちにかなりの歩数を歩いています。コースを設定すればどこでもプレーができ、また、仲間と一緒にプレーし、笑顔になるだけでも健康的です。我がグラウンド・ゴルフ同好会は10数名の小規模人数で、月2回、津田運動ひろばを拠点に練習をしています。

また、年2回の同好会内大会や市長杯、地域合同大会などにも参加しています。高齢化が進み新規入会者が少ない悩みはありますが、仲間と健康寿命延長を目指して立向かって行きたいと考えています。



編集後記

「いい塩梅だ」最近はめったに聞かない言葉になりました。

塩梅(あんばい)とは、料理の味加減や物事の具合、健康状態のこと。程よく物事を処理する、程よく並べる・配置するといった意味でも用いられるようです。

ウィズコロナと言われ、コロナ禍の次の時代に入る様に言われていましたが、未だに感染の波が繰り返しています。しかし、我々は、感染症にも負けず、賢明に「いい塩梅」の社会活動・組織活動を続けていきたいものです。



自治会についての詳細情報は、市のホームページにも掲載しています。

<https://www.city.hitachinaka.lg.jp/>

